

委員会審議		平成 31 年 4 月 18 日
申請者	病理診断部長	南 優子
1	院内がん登録を用いた日本国内 AYA 世代発症原発性肺癌の動向に関する検討	
研究の概要	<p>概要</p> <p>(1) 背景：Adolescent and Young Adult : AYA 世代、すなわち思春期・若年成人世代に発症する癌は、いわゆる希少癌にあたるもの、一方では成人に多いがん種の中では希少な年代にあたり、診断や治療また社会的な問題を多く抱える。2017 年には厚生労働省の健康局が実施する検討会として「小児・AYA 世代のがん医療・支援のあり方に関する検討会」が発足し、AYA 世代のがんの現状や診療などの報告が行われ、検討が進んでいる。</p> <p>一方、2018 年に国立がん研究センターから方向された小児・AYA 世代のがん統計が発表されていて、肺癌の年齢調整罹患率は男性 12.3、女性 11.3、男女 11.8(対 100 万人)と報告された。一方全年齢の罹患率は男性で約 125.6、女性で約 56.6(対 10 万人：2014 年)であり、比較すると AYA 世代の肺癌は希少であるということがいえる。肺癌の全体の罹患率はわかるものの、詳細な組織型は報告されていない。</p> <p>そこで、今後の治療戦略などを考える前段階として、Adolescent and Young Adult : AYA 世代、すなわち思春期・若年成人世代の肺癌組織の動向を調べ、それ以上の年齢層との組織型や病期の違いを明らかにすることを目的とする。</p> <p>(2) 目的：Adolescent and Young Adult : AYA 世代、すなわち思春期・若年成人世代の肺癌組織の動向を調べ、それ以上の年齢層との違いを明らかにする。</p> <p>(3) 対象及び方法：院内がん登録データに登録されている原発性肺癌症例（2011-2015 年）がん発症が 15 歳以上および当院の AYA 世代の肺癌患者（2000 年~2019 年 3 月）と 40 歳以上の肺癌患者（2015 年）</p> <p>研究の種類・デザイン：後向き観察研究</p> <p>評価項目：(1)組織型、(2)発症時年齢、(3)性別、(4)cTNM 分類 臨床病期 (cStage)、(5)pTNM 分類 病理病期 (pStage)、(6)治療の有無（手術、放射線、化学療法）</p> <p>(4) 実施場所及び実施期間：承認日～2020 年 12 月 31 日</p>	
判定	承認	本審査は全員一致で承認された